**令和３年度　鵜川小学校　学校経営方針**

**1　教育目標**

　　　　　　　　心身ともに健康で、主体的・創造的な児童の育成

**2 めざす児童像**

○すすんで学ぶ子(知)　　○思いやりのある子(徳)　　○たくましい子（体）

**3　めざす学校像**

・児童一人ひとりが安全に、安心して通うことができる学校

・保護者や地域住民が「協力・応援」したいと思う学校

　・児童や保護者、教職員が信頼と誇りを持てる学校

**４　学校経営の基本方針**

**重点目標　　　　本質　　　再構築　　　変容**

保護者や地域の人々からの信頼を基盤に、安全安心な環境の中で、自分の考えを再構築して目標に

向かって、 主体的に挑戦し強い意志と実行力を持った児童の育成を目指す。全教職員が本質を見極め、

協働して学校経営に参画し、変容できる学校づくりを目指す。

① 知徳体のバランスの取れた学校づくり

＜**確かな学力＞**

・学習規律、家庭学習習慣を定着させ、基礎的・基本的な知識及び技能を身につけた子を育成する。

・GIGAスクール構想の実現に基づき、授業で一人一台端末やICTを積極的に活用し、多様な子供たちの資質・能力を育成できるように学習環境を整え、意欲を持って学習に取り組めるようにする。

・学力向上ロードマップ・学力向上プランに基づき、組織的にPDCAサイクルで指導の充実を図り

校内研修（授業研究等）を通して授業改善・授業力向上を目指す。

・課題に対して、既習を生かし見通しをもたせることで、主体的に取り組ませ、対話を通して自分の考

えを再構築し、深めることができるようにする。

＜**豊かな心＞**

・気持ちのよい挨拶(語先後礼)の肯定評価しながら習慣化を図る。

・道徳の時間を要として、道徳的価値を深く見つめ、自己を振り返えらせることで、道徳的実践力の向上を目指す。

・自ら目標を設定し、粘り強くやり抜く子の育成を図る。

・地域と連携した自然・文化・風土を知る体験活動の充実を図る。

＜**健やかな体＞**

・「体力アップ１校１プラン」をもとに、計画的に体力向上や運動能力向上を図り、年間を通して

児童に「体を動かす楽しさ」「体力の向上」を実感できる活動を実践する。

・各種体育的行事(スポチャレ・うかわっ子オリンピック・校内マラソン大会等)で適度な競争意識を与

えたり、賞賛や評価を行ったりすることで、向上意欲をかき立てる。

・家庭と連携した基本的な生活習慣の形成と健康な食生活の充実を図る。(早寝早起き朝ごはん)

**＜特別支援教育の充実＞**

・児童の困り感を把握し、特性に応じた支援を工夫し、多様な体験を通して、満足感や達成感を味わわせることで､自己肯定感を高める。

・支援を要する児童への理解を校内研修等を通じて深め、個に応じた支援体制を整えて、切れ目のない指導を図る。「みんな違って、みんないい」の精神で、人を思いやる心を育てる。

② 安全・安心な学校づくり

　・あらゆるリスクを想定し、一人一人の教職員が危機管理意識をもって教育活動に当たる。

・「いじめは、どの子どもにも、どの学校でも起こりうる」という意識の下、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を組織的に実践し、いじめや不登校のない安心な学校・学級を作る。

・避難訓練等を通して、危機回避能力の育成と家庭地域と連携した安全教育・防災教育を推進する。

③ 家庭・地域との連携教化

**＜家庭と学校との連携＞**

　・家庭と連携し、学習習慣の定着を図り、家庭学習の量的、質的向上を目指す。

　・家庭読書週間、読書紹介カードなどの活動に取り組み、家庭と連携しながら読書活動を推奨する。

　･各種便りやホームページを活用し、学校や児童の活動の様子を積極的に発信する。

**<地域に開かれた学校づくり>**

・教育目標の達成に必要な教育資源「人・もの・自然」を、教育課程に位置づけて、保護者や地域の

協力を得ながら地域に根差した教育活動を意図的・計画的に展開していく。

・「海洋教育」を核として、地域の教育資源を有効活用し、「ふるさと教育」に努め、地域の良さを見いだし、地域の一員としふるさとに誇りが持てるようにし保護者・地域から応援される学校づくりを目指す。

④ 活力ある教師集団づくり

　　・教育公務員として、服務規律を遵守しながら、プロ意識を持ち、児童、保護者、地域に信頼される

教師集団を目指す。

・「報告・連絡・相談」の徹底を図り、全職員が一丸となって協働的に課題解決に取り組む。

・教員育成指標をもとに、キャリアステージに応じた目標を立て、計画的に育成する。

・「若プロ」「GIGA校内研修」を通して、組織的に人材育成を行い、教職員の資質・授業力向上を目指す。また、職員の得意な分野を生かし、メンターとなって広めたり、活躍の場を設けたりする。

　　・教師が心身ともに健康で元気に子供たちと向き合うことができるように、業務改善を行うことで、

　　　時間外勤務時間を減らし、また、ワークライフバランスの充実が図れるようにする。